

『医学部保健学科・保健学研究科ファクトブック』

1. 他大学・他学部にない強み（独自性） . . . P 1
2. 最近における特記事項 . . . P 3
3. 社会貢献 . . . P 6
4. 各界で活躍している教員・卒業生 . . . P 7

1. 他大学・他学部等にはない強み（独自性）

◆学部教育について

平成 19 年度から新カリキュラムを導入し、他領域の医療従事者と協調し、他職種を相互理解してチーム医療を実践できるように共通特論をコア科目として設定し、また 4 年次には卒業研究を開講し研究を含む新しい課題への展開力、企画力、創造力の向上を図っている。

特に、感染症を対象とする教育研究分野には細菌学（白川、大澤、重村）、ウイルス学（亀岡、小瀧、靱、林、堀田）、寄生虫学（入子）が配置され、これらを機能的に発展させた感染症数理モデル・疫学領域、看護学領域と協同した母子感染対策領域を包括した国内有数の感染症対策拠点となっている。

また、患者中心型医療推進のために喫緊の課題となっている多職種の医療専門職の協働に応えるため、医学科・保健学科の両学科学生を対象として、1 年次から多職種医療人協働（Inter Professional Work. 以下「IPW」という）に関する知を体系的に学習するカリキュラムを実施している。なお、平成 21 年度からは神戸薬科大学とも連携し、薬学生を加えた「初期体験臨床実習」としてさらなる充実を図っている。（本取組は、文部科学省の平成 19 年度「特色ある大学支援プログラム」に保健学科が採択され、継続して行っている。）

◆協働の知を創造する体系的 IPW 教育の展開（学部教育）

少子高齢社会における患者中心型の総合保健医療推進のために、他領域の医療従事者と協調し、他職種を相互理解してチーム医療を実践する、多職種医療人協働（Inter Professional Work. 以下「IPW」という）が喫緊の課題となっている。本学では、平成 19 年度より、医学科・保健学科の両学科学生を対象に、1 年次から多職種医療人協働に関する知を体系的に学習するための、経験学習論（経験に基づく学習とリフレクション学習）および成人学習論を理論基盤としたカリキュラムを実施している。なお、平成 21 年度からは神戸薬科大学とも連携し、薬学生を加えた「初期体験臨床実習」としてさらなる充実を図っている。（本取組は、文部科学省の平成 19～21 年度「特色ある大学支援プログラム」に保健学科が採択され、継続して行っている。）

特に、看護学専攻においては、保健師助産師看護師法の改正および本学の将来構想に基づき、平成 24 年から 4 年間の看護師教育課程に特化した看護学教育カリキュラムに再編成した。本カリキュラムの特長の中に、「IPW 教育に基づく保健医療福祉における看護の専門性と独自性を発揮できる人材の育成」および「リフレクションプロセスを重視した看護実践力の育成」がある。本学看護学専攻および医学部附属病院看護部が共に開発した「経験に基づくリフレクション（省察）を軸とした看護実践能力の育成プログラム；『キャリアシステム・神戸 REED プランー経験学習に基づく双方向型学習ー』文部科学省選定事業（平成 22 年～26 年）」を活用し、本学独自に開発した臨地実習における学生・教員・臨地実習指導者相互の学習ツールであるポートフォリオを用いた少人数対話型の経験学習を強化し、理論と実践を統合した看護実践教育を段階的に、かつ学生個人の成長に合わせて展開している。

◆大学院教育について

平成 24 年度より全 5 領域の大学院生である日本人学生及び外国人留学生を対象に、修学期間を通じて英語による授業を受講し、学位の取得を目指すことができるコース（ICHS）を開講した。本コースは平成 24 年度前期課程にて共通科目 10 科目、専門科目 33 科目を開講し、平成 26 年度より後期課程に拡張し、共通科目 8 科目、専門科目 29 科目を開講した。専任教員及び国内外の講師による Summer Educational Program を開講し

ている。

また、医学研究科「シグナル伝達医学研究展開センター（平成 28 年度より）」には、木戸(代謝)、森(神経)、亀岡(感染症)がメンバーに入っている。

◆地域保健学と国際保健学領域の設置（大学院）

当研究科には、看護学領域、病態解析学領域、リハビリテーション科学領域の 3 つの学問分野とともに、地域保健学と国際保健学の 2 つの融合型・展開型領域が設置されていることが特色である。地域保健学領域では、地域の健康問題やケアシステムの構築、ケアネットワークの推進やエビデンスに基づいた健康教育、保健指導の実践等を通して、地域において活躍できる保健師や養護教諭、理学療法士や作業療法士、教育、研究者を養成している。その成果は地域連携活動発表会で学内他研究科より高い評価を得ている。国際保健学領域では、環境や産業衛生・公衆衛生分野、感染症、母子保健、リハビリテーション、災害後の復興過程での保健指導や地域開発の指導が行える高度医療専門知識や技術を身に付けた医療専門職者を養成している。また、国際教育を推進するために、学外での国際活動やインターンシップの単位化、英語授業、海外連携大学ならびに神戸大学海外拠点の教育研究的活用等を実施している。さらには、博士課程前期課程において、修士の学位を英語のみで取得できる英語コースを平成 24(2012)年度から開講している。（平成 26(2014)年度からは、博士課程後期課程においても、博士の学位を英語のみで取得できる英語コースを開講。）このような取り組みが認められ、大学の世界展開力強化事業「ASEAN 諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成」（平成 24 年度～28 年度）の採択につながっている。

◆看護学領域における家族支援専門看護師コースの設置（大学院）

看護学領域は、看護実践開発学分野、在宅看護学分野、家族看護学分野、母性看護学分野に分類されるが、そのうち家族看護学分野に Certified Nurse Specialist (CNS) 課程が平成 20 年度から設けられている。同課程は家族看護のスペシャリストの養成コースであり、わが国では 5 校 {高知県立大学大学院、東海大学大学院、愛知県立大学大学院、神戸大学大学院、大阪府立大学大学院 (74 校中)} のみが認定されている。CNS は、看護職の中では最上位の新しい資格で、看護界の将来を背負う役割が期待されている。本コースでは、研究から得たエビデンスや理論に基づいた家族支援が実践でき、また、International Family Nursing Association、Transcultural Nursing Society、International Association for Human Caring への参加などにより、国際的な視野で家族看護学研究に取り組むことを方針としている。国際化に対応できる英語でのコミュニケーション能力の育成と幅広い国際的な文化理解を深めることを目的として、一部の科目においてティーチング・ランゲージが英語の講義、海外の家族看護学研究者による講義などを実施し、国際的に活躍できる高度専門職業人の輩出を目指している。

◆博士前期課程における保健師コース及び助産師コースの設置（大学院）

平成 21 年の保健師助産師看護師法の改正において、保健師と助産師の教育年限の延長が明記されたこと及び本研究科の将来構想に基づき、保健師教育及び助産師教育を従来の学士課程から大学院博士前期課程へ変更し、平成 28 年度に地域保健学領域に「保健師コース」を、看護学領域に「助産師コース」を

新たに開設した。平成 28 年 5 月 1 日現在、大学院で保健師教育を実施している大学は 10 校のみ（国立大学は北海道大学、東北大学、東京大学、神戸大学の 4 校）、助産師教育を実施している大学は 35 校（うち国立大学は 14 校）である。本コースは、4 年間の充実した看護学教育を基盤に、総合大学の強みを活かした文理両面からの学際的教育及び海外大学等との国際的連携に基づく教育を特色とし、次世代に必要とされる複雑かつ高度な問題解決に取り組むことが可能な高度看護実践者として、また国際社会で活躍できる保健医療専門職としての保健師及び助産師の育成を目指している。

これらの特色を踏まえて、保健師コースでは 1) 高度な実践力を発揮し保健行政をリードできる保健師、2) グローバルな視点を備え世界をリードできる保健師の育成、助産師コースでは 1) ハイリスク事例に卓越した実践・調整力を発揮できる助産師、2) 管理・経営に卓越した力を発揮できる助産師、3) 実践的研究に卓越した力を発揮できる助産師の育成を目指したカリキュラムを設定し、大学院科目 30 単位（特別研究 10 単位を含む）に加え、保健師専門科目を指定規則より 1 単位多い計 29 単位、助産師専門科目を同規則より 4 単位多い計 32 単位で展開している。

2. 最近における特記事項

◆平成 24（2012）年度 ～平成 28（2016）年度

■日本学術振興会の大学の世界展開力強化事業プログラム

「ASEAN 諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成」

神戸大学及び大阪大学の世界標準の教育を通して、ASEAN 諸国との連携・協働による「次世代医学・保健学グローバルリーダー」を育成することを目標に掲げる。本プログラムでは、医学・保健学分野における世界標準の専門能力及び ASEAN 諸国の課題への的確な問題解決能力を発揮し、さらに、英語による実践的コミュニケーション能力を有することにより、第一線で活躍できる医師、教育研究者、高度医療専門職者及び医療産業人を育成する。ASEAN 諸国との連携・協働による教育プログラムとして多層的な学生、教員の派遣交流を実施した。

〈派遣・受入実績〉

【平成 24（2012）年度】

- ・派遣 院生 3 人（内訳：インドネシア大学 3 人）
- 教員 3 人（内訳：マヒドン大学 1 人、チェンマイ大学 2 人）

【平成 25（2013）年度】

- ・派遣 学部生 6 人（内訳：マヒドン大学 1 人、チェンマイ大学 4 人、アイルランガ大学 1 人）
- 院生 4 人（内訳：チェンマイ大学 1 人、アイルランガ大学 1 人、ガジャマダ大学 2 人）
- 教員 10 人（内訳：マヒドン大学 1 人、チェンマイ大学 5 人、アイルランガ大学 2 人、ガジャマダ大学 2 人）
- ・受入 学部生 2 人（内訳：チェンマイ大学 2 人）
- 院生 3 人（内訳：チェンマイ大学 1 人、ガジャマダ大学 2 人）

【平成 26（2014）年度】

- ・派遣 学部生 5 人（内訳：チェンマイ大学 4 人、アイルランガ大学 1 人）

- 院生 6人 (内訳：チェンマイ大学1人、アイルランガ大学2人、ガジャマダ大学2人)
- 教員 3人 (内訳：チェンマイ大学3人)
- ・受入 学部生 2人 (内訳：チェンマイ大学2人)
- 院生 1人 (内訳：チェンマイ大学1人)

【平成27(2015)年度】

- ・派遣 学部生 5人 (内訳：チェンマイ大学4人、アイルランガ大学1人)
- 院生 4人 (内訳：マヒドン大学1人、チェンマイ大学1人、アイルランガ大学1人、ガジャマダ大学1人)
- 教員 3人 (内訳：チェンマイ大学3人)
- ・受入 学部生 2人 (内訳：チェンマイ大学2人)
- 院生 2人 (内訳：マヒドン大学1人、チェンマイ大学1人)
- ・招聘 教員 1人 (内訳：チェンマイ大学)

【平成28(2016)年度】

- ・派遣 学部生 7人 (内訳：チェンマイ大学4人、アイルランガ大学1人、ハノイ医科大学2人)
- 院生 5人 (内訳：マヒドン大学2人、チェンマイ大学1人、アイルランガ大学1人、フィリピン大学1人)
- 教員 4人 (内訳：チェンマイ大学3人、ハノイ医科大学1人)
- ・受入 学部生 2人 (内訳：チェンマイ大学2人)
- 院生 1人 (内訳：チェンマイ大学1人)
- ・招聘 教員 2人 (内訳：チェンマイ大学1人、フィリピン大学1人)

〈セミナー開催実績〉

- ・平成25年2月20日 WHO 神戸センターテクニカルオフィサーによるセミナー
(開催場所：保健学研究科、参加学生15人)
- ・平成25年1月31日 インドネシア大学における大学院生研究発表会
(開催場所：インドネシア大学、参加学生3人)
- ・平成25年10月18日 Cooperation and Collaboration Programs with ASEAN Universities
Thailand-Japan Research Seminar on Global Health and Infectious Diseases (開催場所：保健学研究科、参加学生10人)
- ・平成26年2月12日 International Health Science Seminar at Kobe University Graduate School
of Health Sciences 『Nursing Research and Education in Chang Mai University』 (開催場所：保健学研究科、参加学生10人)
- ・平成26年3月27日 Cooperation and Collaboration Programs with ASEAN Universities
Thailand-Japan Research Seminar on Global Health Promotion
(開催場所：保健学研究科、参加学生・教員12人)
- ・平成26年10月8日 感染情報の把握、必要な予防接種や感染症予防方法の確認について
(開催場所：保健学研究科、参加学生・教員60人)
- ・平成27年3月17-18日 Collaboration of Different Generation in the Community
(開催場所：ガジャマダ大学、参加者約200人)
- ・平成28年2月5日 アイルランガ大学、チェンマイ大学、神戸大学遠隔システムによる研究発表

(開催場所：保健学研究科、参加学生 15 人)

- ・平成 28 年 3 月 1-2 日 Health Care Issues Toward Sustainable Development Goals(SDGS)

(開催場所：ガジヤマダ大学、参加者約 350 人)

- ・平成 28 年 7 月 19 日 ガジヤマダ大学医学部看護学科、神戸大学保健学研究科合同セミナー

(開催場所：保健学研究科、参加学生・教員：19 人)

◆平成 28(2016)年

■リハビリテーション科学領域における国際交流

ハノイ医科大学(ベトナム社会主義共和国)/ 2016 年 9 月 12 日～23 日、ハノイ医科大学と MOU を締結後、作業療法学専攻三回生 2 名(引率教員 種村留美)が、ハノイ医科大学の教員が兼務する国立バックマイ病院にて、卒業論文のためのアンケート調査(卒論テーマ/ベトナムのリハビリテーションの事情、ベトナムの作業療法の知識についての調査)を行なった。

FH ヨアネウム(グラーツ, オーストリア) / 2016 年 9 月 1-2 日 MOU 締結後、2017 年 6 月からの学生交流及び研究交流のための具体的なミーティングを行なった。学生交流は、作業療法科目、第 2 クォーターのフィールド実習に FH ヨアネウムの 2 回生が参加および 9 月に当 2 回生が FH ヨアネウムの英語開講授業および地域実習に参加する、研究交流は、相互の研究テーマをプレゼンし、共同で行えるテーマをディスカッションした。参加者/種村留美、野田和恵、場所/FH ヨアネウム

カロリンスカ研究所(ストックホルム、スウェーデン)/ 2016 年 9 月 5-7 日、カロリンスカが考案したテクノロジーの評価バッテリーの国際ワークショップ(参加国 イギリス、ノルウェー、スウェーデン、日本)に参加した。また、カロリンスカとの共同研究の高齢者の Everyday technology 開発についてプレゼンした。参加者 種村留美、野田和恵、長尾徹

■アジア健康科学フロンティアセンターの設置

2016 年 3 月に、健康科学の観点から文理融合・地域や海外との連携を手段とし、人の健康を支援するために、「アジア健康科学フロンティアセンター」を設置した。本センターには「グロース&ディベロップメント部門」「ヘルスリテラシー部門」「インフェクシャス・コントロール部門」「サクセスフル・エイジング部門」の 4 部門が設置され、それぞれ「小児化・母子保健」「社会実装・社会基盤化」「感染症」「生活習慣・超高齢化」に対応し、多様化するアジア諸国の保健衛生課題に貢献すべく活動している。また、2017 年 7 月 29 日には、本センターのキックオフシンポジウム「アジアの健康を拓く」を開催した。

◆優秀論文賞等受賞状況 (大学院)

年度	受賞名称	学会等名称	内容	修士/博士
平成 23 年度	若手研究奨励賞	日本内分泌学会 学術総会	2 型糖尿病候補遺伝子 KCNQ1 の膵 β 細胞に及ぼす役割の検討	修士
平成 24 年度	学術奨励賞	日本臨床分子医学 学会	Kcnq1 遺伝子領域におけるエピジェネティクス制御が膵 β 細胞量に及ぼす影響の解析	修士
平成 27 年度	Young Investigator	第 19 回国際膵臓	Insulin-Producing Cells Derived from the Immortali	修士

	Award	学会	zed Pancreatic Stem Cells	
平成 27 年度	Young Investigator Award	第 19 回国際膵臓学会	Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Primes the Adjacent Normal Ducts for a Precancerous Phenotype	修士
平成 27 年度	大会企画優秀賞（症例研究部門）	第 50 回日本理学療法学会	街並認知障害を呈した症例に対するアプローチの一考察	博士

3. 社会貢献

◆地域連携センターの取り組み

保健学研究科では、総合的な知識と実践力を持つ人材を育成し、地域で生活する人々の健康に貢献するため、平成 17 年に地域連携センターを設立した。「少子高齢社会に適応した街づくり」をテーマに、兵庫県、神戸市などとの連携の下に「極低出生体重児と家族のための支援教室」、「重い障害のある子どもの医療的ケア支援事業」、「発達障害をもつ子どもと家族のための支援事業」など様々なプロジェクトを実施している。地域経済の活性化には、コミュニティに根ざした健康づくりが不可欠であり、新しい技術とグローバルな視点を持つ保健・医療人材が求められている。平成 24 年度には、上記の事業以外に「思春期の子どもの相談・居場所づくり事業」、「認知症のある高齢者と家族への支援プログラム」など 7 つのプロジェクトを展開中である。また、本センターは、篠山市、神戸市須磨区と地域連携協定を締結している。本学にある人文学研究科地域連携センター、農学研究科地域連携センターと協力して、篠山市、神戸市に設けた 2 か所のフィールドワークステーションを核とした活動を行っており、総合的な地域コミュニティづくりを目指している。

◆地域への人材供給等

兵庫県、神戸市をはじめとする近隣の自治体に毎年数名の保健師が採用されるとともに、地域保健教育に携わる大学教員を輩出している。また、地域リハビリテーションに関わる看護師・理学・作業療法士など数多くの人材を社会に供給してきた。地域保健医療に関するこれらの実績のもとに、JICA やアジア科学教育経済発展機構などを通じて、アジア・アフリカ地域から地域母子保健・障害者看護に関する短期研修生を受け入れている。

◆地域企業との共同研究

以下の地域企業と共同研究を行っている。

- ・バンドー化学（平成 28 年 3 月 1 日～平成 29 年度現在継続中）

◆糖尿病病態解明

糖産生に関してはさらに採血による簡便な検査で測定できるモニターシステムを開発し、特許を取得した。これらの研究成果は、国際的な一流雑誌 Journal of Clinical Investigation, Nature Medicine, Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America に掲載された。

4. 各界で活躍している教員・卒業生

◆教授

高田 哲

- 平成 22(2010)年 1月 24日 読売新聞 朝刊 「ジャワの被災児支援」
 平成 22(2010)年 1月 24日 神戸新聞 朝刊 「ジャワの被災児支援」
 平成 23(2011)年 4月 23日 赤旗新聞 朝刊 「東日本大震災が母子に及ぼした影響」
 平成 23(2011)年 6月 24日 神戸新聞 朝刊 「大震災 喪失と向き合う」
 平成 24(2012)年 5月 7日 毎日新聞 朝刊 「発達障害は親の愛情不足」
 平成 26(2014)年 4月 21日 神戸新聞 朝刊 「インドネシアに学ぶ地域医療」

種村 留美

- 平成 21(2009)年 6月 19日 日本作業療法士協会 協会表彰を受賞
 平成 22(2010)年 11月 NHK 今日の健康に出演 「失行症」
 平成 25(2013)年 5月 (株)Z会 進路指導教材「TEIDAN」に神戸大学医学部保健学科 作業療法専攻を紹介した。
 平成 25(2013)年 5月 27日 毎日新聞 朝刊 医療ルネサンス 「お助け機器 4/5 リモコン操作簡単に」
 (長尾徹准教授と共同)

- 平成 25(2013)年 9月 7日 神戸新聞 こぼれ落ちる記憶-高次脳機能障害の現実- (下)
 平成 26(2014)年 7月 24日 ラジオ関西 「谷五郎のこころにきくラジオ」に出演
 平成 26(2014)年 8月 28日 神戸新聞 朝刊 「日常の動作間違え 「失行症」」

秋末 敏宏

- 平成 27年 10月 3日 神戸新聞 朝刊 「ロコモ」を防ぎ人生豊かに

◆准教授

亀岡 正典

- 平成 26(2014)年 9月 4日 TBS NEWS23 に声の出演 「デング熱について」
 平成 26(2014)年 9月 12日 広島 RCC ラジオ「本名正憲のおはようラジオ」に出演 「デング熱ウイルスの国内広域感染について」

駒井 浩一郎

- (株) フロムページ 夢ナビ 大学教員紹介 <http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g004275>
 専門分野：分子生物学
 キーワード：遺伝子研究

長尾 徹

平成 25(2013)年 5 月 27 日 毎日新聞 朝刊 医療ルネサンス 「お助け機器 4/5 リモコン操作简单に」
(種村留美教授と共同)

平成 25(2013)年 6 月 28 日 日本作業療法士協会 協会表彰を受賞
平成 28(2017)年 9 月 25 日 厚生労働大臣表彰を受賞

野田 和恵

平成 25(2013)年 6 月 28 日 日本作業療法士協会 功労表彰を受賞

三浦 靖史

平成 25(2013)年 5 月 13 日 朝日新聞 夕刊 「競技かるた ひざ・腰に負担 選手半数に痛み 神戸大学
院が調査」

平成 27(2016)年 7 月 27 日 神戸新聞 朝刊 「ひょうごの医療 シリーズ 40 運動器の病気④ 関節リウ
マチ」

平成 28(2017)年 1 月 26 日 ニッポン放送 「我那覇美奈のほっこりトーク」で「リウマチ患者さんへの
音楽療法」に関する話し

◆助教

小瀧将裕

平成 25(2013)年 11 月 25 日 神戸新聞 朝刊 「インドネシアで HIV 調査 性産業従事者での感染率 50 倍」

◆大学院生

石川 智昭

平成 25(2013)年 7 月 7 日 毎日新聞 夕刊 「身体障害者補助犬法の啓発」

・国及び地元において学識経験者として審議会等に参加している教員の氏名及び審議会等名については、次
の一覧のとおり。

国、地元において学識経験者として社会貢献している研究者一覧

職名	氏名	相手方	審議会名等	期間
教授	グライナー 智恵子	神戸市	介護認定審査会委員	H27.4.1～H29.3.31
教授	グライナー 智恵子	神戸市	介護認定審査会委員	H29.4.1～H32.3.31
教授	古和 久朋	神戸市保健福祉局	事故救済制度に関する専門部会委員	H29.6.7～H30.3.31
教授	齋藤 いずみ	日本看護系大学協議会	専門看護師教育課程認定委員会母性看護専門分科会委員	H24.6～H25.6
教授	齋藤 いずみ	公益社団法人日本看護協会	専門看護師認定実行委員会(母乳看護)委員	H24.7.1～H26.6.30
教授	齋藤 いずみ	公益社団法人日本看護協会	専門看護師認定実行委員会(母乳看護)委員	H28.7.1～H30.6.30
教授	塩谷 英之	伊丹市	伊丹市国民健康保険運営協議会委員	H29.9.14～H31.9.31
教授	高田 哲	神戸市教育委員会	神戸市障害児就学指導委員会専門委員	H25.6～H26.3
教授	高田 哲	神戸市教育委員会	医療的ケア連絡会委員及び医療的ケアに関する手引き改定委員会監修者	H25.11～H26.3
教授	高田 哲	神戸市教育委員会	神戸市教育振興基本計画点検・評価委員会委員	H22.4～H27.3
教授	高田 哲	神戸市教育委員会	神戸市教育振興基本計画検討委員会委員	H25.9～H26.3
教授	高田 哲	神戸市	発達障害児(者)支援連絡協議会委員	H25.4～H26.3
教授	高田 哲	神戸市	発達障害児(者)思春期事業懇談会委員	H24.4～H26.3
教授	高田 哲	神戸市こども家庭センター	神戸市すこやか保育専門指導委員会委員	H25.9～H27.9
教授	高田 哲	兵庫県	医療型障害児・者施設整備検討委員会委員	H25.7～H26.3
教授	高田 哲	独立行政法人科学技術振興機構	研究成果最適展開支援プログラム専門委員	H24.4～H26.3
教授	高田 哲	神戸市発達障害者支援センター	神戸市発達障害児(者)支援連絡協議会委員	H26.4.1～H27.3.31
教授	高田 哲	神戸市発達障害者支援センター	神戸市発達障害児(者)支援連絡協議会委員	H27.4.1～H28.3.31
教授	高田 哲	神戸市発達障害者支援センター	神戸市発達障害児(者)支援連絡協議会委員	H28.4.1～H29.3.31
教授	高田 哲	神戸市発達障害者支援センター	神戸市発達障害児(者)支援連絡協議会委員	H29.4.1～H30.3.31
教授	高田 哲	神戸市教育委員会	平成27年度認定研修実施委員会及び医療的ケア連絡会委員	H27.7.11～H28.3.31
教授	高田 哲	神戸市教育委員会	平成28年度医療的ケア認定研修実施委員会及び医療的ケア連絡会の委員	H28.6.18～H29.3.31
教授	高田 哲	神戸市教育委員会	平成29年度医療的ケア認定研修実施委員会及び医療的ケア連絡会の委員	H29.6.10～H30.3.31
教授	高田 哲	神戸市総合児童センター	発達障がい支援サポート事業講師	H29.4.1～H30.3.31
教授	高田 哲	国立研究開発法人科学技術振興機構	地域産学バリュープログラム専門委員	H29.6.1～H31.3.31
教授	高田 哲	神戸市こども家庭センター	神戸市すこやか保育専門指導委員会委員	H27.9.16～H29.9.15
教授	高田 哲	神戸市こども家庭センター	神戸市すこやか保育専門指導委員会委員	H29.9.16～H31.9.15
教授	高田 哲	神戸市役所	有識者会議委員	H29.10.1～H30.9.30
教授	高田 哲	神戸市教育委員会	平成26年度神戸市障害児就学指導委員会専門委員	H26.6.5～H27.3.31
教授	高田 哲	神戸市教育委員会	平成27年度神戸市障害児就学指導委員会専門委員	H27.6.11～H28.3.31
教授	高田 哲	神戸市教育委員会	平成28年度神戸市障害児就学指導委員会専門委員	H28.6.16～H29.3.31
教授	高田 哲	神戸市保健福祉局	神戸市重度障害児者医療福祉コーディネート事業実施にかかる有識者会議委員	H27.10.1～H28.9.30
教授	高田 哲	神戸市保健福祉局	神戸市重度障害児者医療福祉コーディネート事業実施にかかる有識者会議委員	H28.10.1～H29.9.30
教授	高田 哲	神戸市	神戸市市民福祉調査委員会委員	H27.7.29～H30.7.28
教授	種村 留美	文部科学省	大学設置・学校法人審議会専門委員	H20.4～H23.3
教授	種村 留美	文部科学省	大学設置・学校法人審議会専門委員(大学設置分科会)	H27.11.13～H28.10.31
教授	種村 留美	文部科学省	大学設置・学校法人審議会(大学設置分科会)	H28.11.14～H29.10.31
教授	種村 留美	神戸市	「認知症の人にやさしいまちづくりに関する有識者会議」臨時委員	H29.9.1～H30.3.31
教授	種村 留美	神戸市	神戸創生戦略プロジェクトチーム	H27.6.18～H28.3.31
教授	中澤 港	国立社会保障・人口問題研究所	「人口問題研究」編集委員	H25.4～H26.3
教授	中澤 港	国立社会保障・人口問題研究所	「人口問題研究」編集委員	H26.4.1～H27.3.31
教授	中澤 港	国立社会保障・人口問題研究所	「人口問題研究」編集委員	H28.4.1～H29.3.31
教授	中澤 港	国立社会保障・人口問題研究所	「人口問題研究」編集委員	H29.4.1～H30.3.31
教授	橋本 健志	兵庫労働局	地方労災委員	H29.4～H31.3

職名	氏名	相手方	審議会名等	期間
教授	橋本 健志	兵庫労働局	地方労災委員	H27.4.1～H29.3.31
教授	橋本 健志	神戸市	精神医療審査会委員	H28.4.1～H30.3.31
教授	橋本 健志	神戸市	精神医療審査会委員	H26.4.1～H27.3.31
教授	橋本 健志	ひょうご震災記念21世紀研究機構	兵庫県こころのケアセンター倫理審査委員会委員	H26.4～H28.3
教授	橋本 健志	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構	兵庫県障害者職業センター医療情報助言者	H24.5～H25.3
教授	橋本 健志	兵庫県障害福祉審議会委員	兵庫県障害福祉審議会委員	H27.5.1～H30.4.30
教授	橋本 健志	兵庫県障害福祉審議会委員	兵庫県障害福祉審議会委員	H26.8.20～H27.2.6
教授	法橋 尚宏	神戸市立友が丘中学校	学校評議員	H29.4.1～H30.3.31
教授	法橋 尚宏	神戸市立友が丘中学校	学校評議員	H28.4.1～H29.3.31
教授	法橋 尚宏	神戸市教育委員会	認定研修実施委員会及び医療的ケア連絡会委員	H26.6.1～H27.3.31
教授	法橋 尚宏	神戸市教育委員会	平成27年度認定研修実施委員会及び医療的ケア連絡会委員	H27.7.11～H28.3.31
教授	法橋 尚宏	神戸市教育委員会	平成28年度医療的ケア認定研修実施委員会及び医療的ケア連絡会の委員	H28.6.18～H29.3.31
教授	法橋 尚宏	神戸市教育委員会	平成29年度医療的ケア認定研修実施委員会及び医療的ケア連絡会の委員	H29.6.10～H30.3.31
教授	宮脇 郁子	公益社団法人兵庫県看護協会	認定看護師教育課程教員委員会委員	H26.4.1～H27.3.31
准教授	小野 玲	神戸市	介護認定審査会委員(東灘区)	H23.4～H27.3
准教授	小野 玲	神戸市	介護認定審査会委員(東灘区)	H27.4.1～H29.3.31
准教授	小野 玲	神戸市	介護認定審査会委員(東灘区)	H29.4.1～H32.3.31
准教授	小寺 さやか	神戸市	介護認定審査会委員	H26.4.1～H27.3.31
准教授	小寺 さやか	神戸市須磨区保健福祉部	須磨区要保護児童対策地域協議会委員	H27.7.27～H28.3.31
准教授	小寺 さやか	兵庫県健康福祉部健康局健康増進課	地域ケアの総合調整研修会助言者	H27.10.1～H28.3.31
准教授	小寺 さやか	兵庫県丹波県民局	丹波圏域災害時保健活動マニュアル作成検討会委員	H28.10.1～H30.3.31
准教授	小寺 さやか	神戸市須磨区子ども家庭支援室	須磨区要保護児童対策地域協議会委員	H29.7.27～H30.3.31
准教授	千場 直美	公益社団法人兵庫県看護協会	助産師職能委員	H28.6.23～H30.6
准教授	野田 和恵	神戸市市民福祉局	神戸市市民福祉調査委員会特別委員	H27.8.18～H30.7.28
准教授	野田 和恵	神戸市市民福祉局	神戸市市民福祉調査委員会特別委員	H26.5.21～H27.7.28
准教授	四本 かやの	神戸市	介護認定審査会委員	H27.4～H29.3
准教授	四本 かやの	神戸市	介護認定審査会委員	H29.4～H32.3
准教授	四本 かやの	神戸市	保健福祉局障害程度区分等判定審査委員	H29.4～H31.3
講師	中西 泰弘	公益社団法人兵庫県看護協会	教育に関する支部との連携検討委員会委員	H24.5～H25.6
助教	篠川 裕子	神戸市	発達障害児(者)思春期事業懇談会委員	H25.4～H26.3
助教	篠川 裕子	神戸市保健福祉局発達障害者支援センター	地域支援マネージャー	H29.4.1～H30.3.31
助教	篠川 裕子	神戸市保健福祉局発達障害者支援センター	児童発達支援事業所・放課後等デイサービス事業所へのスーパーバイザー	H29.4.1～H30.3.31
助教	正垣 淳子	公益社団法人日本看護協会	認定看護師認定実行委員会(慢性心不全看護)委員	H28.4.1～H30.3.31